

50年前、当社が大阪市内にあった頃はトラックが来てと全員集合で荷物の積み下ろしをしていたそうです。道が狭く、車一台停まると渋滞になる。念願のフォークリフトが使えるようになったのは昭和48年(1973)、今の香芝に移ってからのことです。いろいろな仕事をしてきたので「何屋さんかわからん工場や事務所にしてよ」とデザイナーを入れてきました。外から中が見えるのは珍しかったですね。

やがて工場も手狭になり、不満も出てきた。柱が邪魔で、柱のない工場を建てよう」となった。場所が先代がゴルフに行っていた「こんな緑の中に工場があったらええな」と土地を見つけた。取引先からも操業をすぐに催促され、平成2年(1990)に三重工場が誕生します。私の入社最初の仕事は翌年春の竣工式の準備をすることでした。インドネシアからの実習生を受け入れるようになったのは2006年からで

です。当時はみなハングリーで、稼いだお金を全額近く本国に送金していた。でも最近は日本の若者と同様に生活を楽しんでいますね。帰国してからは現地で店を持つたり起業したりして戻りやっています。3年後にお別れする時も以前のように泣かなくなり、「お世話になりました。では」みたいな感じでした。
実習生の面倒を見てる日本人、社員も減ってきたので、これは何とかなさうと去年からセミナーハウスで月2回日本語の勉強会を行い、うち一回くらいは私と妻の手料理を振る舞ってます。そうめんやうどんを、半分愛想でうまいと言ってくれる(笑)。屋外パーベキューもいけ

れど、狭い和室でおでんを突っくという方が何となく楽しいかな。勉強会のお陰で日本語の試験に通る人が増え、彼らともだいぶコミュニケーションが出来るようになりました。何「これも一つずつですね。実は三重工場の土地を造成していたパブルの頃、ある会社から10億で売ってほしい」と言われたそうです。あの時に売っていたら、彼らと今一緒におでんを囲んでいいですね。不思議な縁ですね。



代表取締役 一ノ坪英二

1 伊賀の里モクモク手づくりファーム

ハムやソーセージ作りや乳しぼり体験ができる農業公園。ミニプラのステージが人気で、愛知や大阪でも直営レストランがファミリーに大好評。



伊賀の里①モクモク手づくりファーム



一ノ坪寮

山のかつと住宅街には、一ノ坪製作所の寮が3つ。住居用が2つに、残る1つはセミナーハウスとして、インドネシアの実習生たちが日本語や文化を勉強したり、IMKスタッフと交流する場所になっています。工場の現場は「習うより慣れよ」。先輩職員から積極的に吸収できるよう、日本語勉強は熱心に取組みます。一ノ坪社長夫妻もセミナーハウスを訪れてはお手製カレーと一緒に食べたり、みんなで手巻寿司パーティーをしたりと、かならずアットホーム!



吉岡敬史

3 サークルK伊賀阿山店

山のかつとにある寮から自転車で行く。寒いシーズンはこのおでんをよく買います!



3 サークルK伊賀阿山店

名阪子サンカントリークラブ

4 たちばな JA SS 楽豚

5 土居

道をへだたせた[楽豚]も、豚井やしゃぶしゃぶが美味しいですよ。近所から車で通っているので、たまには飲んで帰りたい...

あやま 阿山 マイラブ

ようこそ、IMKの本拠地・三重県伊賀市へ。忍者が潜む(?)工場周辺は山、山、山。三重県と滋賀県の県境エリアをご紹介します。



IMK (一ノ坪三重工場)

ジャパンクラシックカントリー倶楽部

道の駅あやま

阿山中学校



河合小学校

ぼくたち日本でガンバッテマス!
インドネシアからやって来た現在16名の実習生たちは、一ノ坪製作所の寮から自転車ですぐに帰ります。行きは上り坂45分・帰りは下り坂25分。日本の自然や文化、言葉に興味津々です。

2 道の駅あやま

伊賀牛や伊賀米に伊賀焼まで、名産がずらり。工場見学帰りのおみやげ調達に重宝するかもしれません。



5 土居

[たちばな]のご近所には、日本庭園を眺めながら食べられるそば屋もあり。これからの季節は、一人から注文できる鍋料理も定番!

伊賀市の誕生は2004年と意外に最近。市町村が合併する前は阿山郡と呼ばれ、滋賀県に近いことから、越境通勤するIMKスタッフも多いです。

案内人



管理部長 井上悦子
三重工場の事務所をつかさどり社内業務をサポートする。笑顔が素敵なみんなのママさんの存在。若き実習生たちにもよく目を配っている。ちなみに幸せを感じる時は「愛犬と遊んでいる時」。



4 たちばな

一ノ坪社長お気に入りの洋食店で、お手軽価格なのにボリュームたっぷりランチはIMKスタッフにも受けがいい。自然の中のログハウスで食べるのも、美味しさのヒミツかもしれません。
☎0595-43-0933 9:00~LO17:30(金~日曜はLO19:30・食事は11:00より) 月曜休

ツボミ

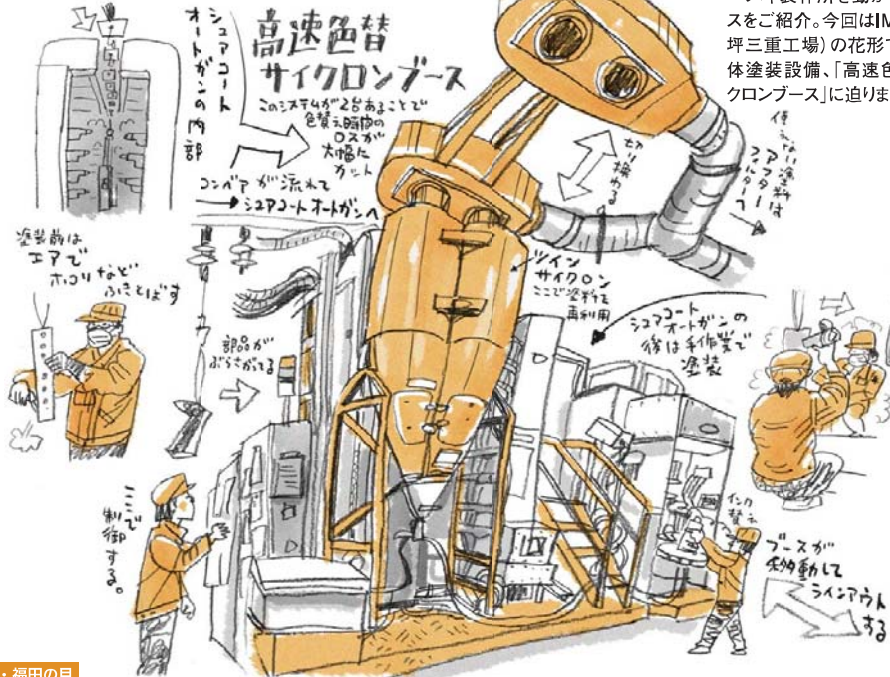
Vol.2
2015
Winter

今号は、
太陽光発電事業も行っている
三重工場からお届け!

株式会社 一ノ坪製作所
ICHINOTSUBO MANUFACTURING CO.,LTD.

http://www.ichinotsubo.co.jp

正式名称：高速色替サイクロンブース
メーカー：ノードソン



案内人・福田の目

本社工場では扱えないサイズや大掛かりなラインの部品塗装を担っています。実は毎月、作業工程データをコツコツ分析して不良製品を生まないように、色の入れ替え時間を短縮するために頑張っています。なんだかんだで、やっぱりお世話になるマシンのメンテナンスと、メンバーのチームワークが成果に直結するんですね。

いちのつぼ



Vol.2

一ノ坪製作所を動かす1ピースをご紹介します。今回はIMK(一ノ坪三重工場)の花形である粉体塗装設備、「高速色替サイクロンブース」に迫ります。

案内人



製造部 三重工場 リーダー
福田俊介

ヒゲがチャームポイントの頼れる指揮官。若手3人+インドネシアからの実習生3人を束ねる。遠隔指示を入れるトランシーバーは必須アイテム。

イチのツボ!



いの一にお届けしたい、一ノ坪製作所の「こんなこと」。今号は、奈良の本社取材班が三重工場のツボを公開します。

写真・文/北村孝洋(開発営業部)、大嶋 曜(管理部)



を込めて「くうちゃん♥」と呼んでいます。
一方、多品種少量生産では3次元データからレーザー加工機、NC切削プレスブレーキをネットワーク接続すること



「一度プログラミングを覚えると、とても素直なくうちゃんです」と語る吉井。

奈良県香芝市にある本社工場のほか、一ノ坪製作所は三重県にも拠点を持っています。当社では三重工場のことを「一ノ坪製作所三重工場(Michinotsubo-sakusyo Me Koujyou)」の頭文字をとって「IMK」と呼んでいます。「IMK」では私たちが慣れ親しんでいるIMKの名称を使ってご紹介いたします。
IMKは三重県伊賀市にて平成22年に稼働しました。稼働当初は主力OEM製品の量産工場として工場設備がレイアウトされ、工場内は無人搬送車が走り回り、高さ8mの巨大な自動倉庫がそびえたっていました。塗装工

いきなりクイズ。
IMKって、なんでしょう?

IMK 塗装組立のツボ!

現在IMKでは粉体塗装と溶剤塗装の2種類の塗装に対応することが可能です。2005年にいち早く設備導入して粉体塗装に切り替えることにより、環境配慮だけでなく品質も格段に向上しました。そして塗装は何と言っても、製品をひっかけるハンガー次第! いかにも良いことができるかによって品質が安定し、塗装効率も上がります。常にハン

程が終わった製品はいったん自動倉庫に格納され、組立をする時に自動倉庫から出庫し組立梱包作業をしています。しかし、この入庫庫の無駄をなくすために、塗装工程完了と同時に組立、梱包作業を同期化する方法にチャレンジ。今ではこの方法が当社の強みの一つになっています。
稼働以来大きな事故もなく、中央労働災害防止協会様より平成23年8月22日付にて470日連続無災害の無災害記録証・金賞をいただきました。また、平成25年3月には太陽光発電を導入して順調に発電しており、間もなく稼働1,000日を迎えようとしています。

IMK 板金加工のツボ!

IMKの板金加工は時代の流れ・変化と共に多品種少量の生産が年々増え、多品種少量の生産が多品種少量の生産を同時にこなしています。

量産品は自動曲げ加工「ヘンダーライン」で無人加工を行い、デスク外装部の胴体部分を製造しています。溶接もプロシエーションを多数配列することにより、工数削減を図り量産対応を行っています。プレスブレーキでは昨年ドイツ製ロボット「KUKA」を導入し、夜間に無人による曲げ加工を行っています。担当の吉井彰宏リーダーは愛着



通称「新A棟」は年内には完成予定。ぜひ工場見学にお越しください。

敷地面積:46,125㎡(13,952坪)
工場面積:3,421㎡(1,035坪)+新A棟990㎡(300坪)=4,411㎡(1,335坪)

NEWS!

時代の流れや変化に対応するため、最新設備の導入やレイアウトの変更による改善を繰り返してきました。これから先を見据えての変化・要望にお応えするため、今年度は工場を増設し新設IMKとして間もなく稼働予定です!